# タイヤを上手に使っていただくために

## 危険防止のために

### 空気充填

⚠危険 ○破裂時の危険を避けるため、タイヤを安全囲いの中にいれる等、安全措置を講じた上、空気を充填してください。
○パンク修理したタイヤに空気を充填する際は、頭部を保護する措置(ヘルメット等の装着)及び眼部を保護する措置(ゴーグル等の装着)を講じることを強く推奨します。
注)上記は小形トラック用タイヤ、トラック及びバス用タイヤに適用。

⚠危険 ○空気充填時または充填後タイヤサイドウォール部からの異音が聞こえたら、ただちに作業を中止し、避難してください。

⚠警告 ○自動車用タイヤの組み立て時のビードシーティング圧は、300kPa (3.0kgf/cm²) とし、これを超える圧は注入しないでください。ビードシーティングとは、タイヤ組み立て時にタイヤの両側のビードがリムのビードシート部に周上均等にのった状態(ハンプ付きリムは、ビードがハンプを越えた状態)をいいます。
注)Tタイプ・折りたたみ式応急用タイヤ、ランフラットテクノロジー採用タイヤ(エクステンディッドモビリティタイヤ)、その他製造業者の指定がある場合にはそれに従ってください。
○ビードシーティング圧を上限として空気を注入し、タイヤの両側のビードがリムのシート部に周上均等にのっていること(均等にのっていない場合はいったん空気を抜き、タイヤをリムから外してタイヤ、リム等に異常がない事を確認し、ビードおよびリムに潤滑剤を再度塗布する)を確認した後、使用空気圧に充填または、調整してください。なお、Tタイプ・折りたたみ式応急用タイヤ、ランフラットテクノロジー採用タイヤ(エクステンディッドモビリティタイヤ)、その他製造業者の指定がある場合にはそれに従ってください。

### タイヤの傷

⚠危険 ●コードに達している外傷・ゴム剥れのあるタイヤは、使用しないでください。タイヤが損傷し、事故につながるおそれがあります。修理が可能か否かについてはタイヤ販売店等にご相談ください。

## 安全維持・性能維持のために

### タイヤ選択時の注意

●自動車製作者が指定した標準タイヤまたはオプションタイヤの使用を基本とし、その他のタイヤを選定される時はタイヤ販売店等にご相談ください。
●積雪または凍結路では、冬用タイヤを全車輪に装着してください。夏用タイヤ(ノーマルタイヤ)は、積雪または凍結路において、冬用タイヤに比べて制動距離が長くなります。また、冬用タイヤは全車輪に装着しないと挙動が安定しません。尚、冬期が過ぎたら一般路(乾燥路・湿潤路)走行に適した夏用タイヤに交換することを推奨します。
●全車輪とも、同一のサイズ、種類、構造、カテゴリー・のタイヤを使用してください。但し、自動車製作者またはタイヤ製作者による個別の指示がある場合は、その指示に従ってください。
※カテゴリーとは夏用タイヤ、冬用タイヤ等をいいます。特に四輪駆動車はご注意ください。

⚠警告 ●サイズ、種類、構造、カテゴリーの異なるタイヤを同一車軸に使用すると、タイヤ性能が異なるため、車の安定性を損ない、事故等につながるおそれがあるので混用しないでください(応急用タイヤは除きます)。
○チューブ、フラップは、タイヤサイズと同一サイズ表示のあるものて、バルブは車両およびホイールに適合するものを使用してください。
○新品のチューブタイプのタイヤには、新品のチューブ、フラップを使用してください。
○新品タイヤを装着するとき、チューブレスタイヤには新品のチューブレス用バルブの使用を推奨します。
●ホイールの選定は販売店等に相談し、タイヤサイズおよび車両に適合したホイールを使用してください。また、チューブレスタイヤには必ずチューブレス用ホイールを使用してください。

### 異物・傷の点検

○ホイールには、亀裂、変形等の損傷や著しい腐食がないことをご確認ください。
●タイヤに亀裂がないか、または釘、金属片、ガラス等が刺さっていたり、溝に石その他異物を噛み込んでいないかご確認ください。異物を発見した時は、タイヤ販売店等にご相談の上、取り除いてください。

### ならし走行

●新品タイヤ装着時にはタイヤがなれるまで、60km/h以下の走行速度で200km以上の走行距離のならし走行を行ってください。

### タイヤ・ホイール装着時の注意

○チューブレスタイヤは、ビード周辺の傷などで空気漏れを起こすことがありますので、リム組み時には、必ず当社推奨の潤滑剤を塗布してください。
○タイヤ内の異物や水分によりタイヤの機能を損なう場合があります。リム組み前にタイヤ内を点検し、異物や水分を取り除いてください。

⚠警告 ○コンプレッサー内の水分もタイヤ内に入る場合がありますので、定期的にドレイン抜きをしてください。
○空気を充填後、バルブコアからの空気漏れ、リム部やタイヤとリムのかん合部 (ビード部周辺) 、バルブまわりからの空気漏れがないことを確認した後、必ずバルブキャップを装着し、しっかり締め付けてください。
○空気充填時の異常に対応するため、三方弁など強制排気装置の設置を推奨します。
●異常振動・偏摩耗を防止するために、ホイールバランスは必ず調整してください。
○サイドプロテクト付きタイヤは、サイドプロテクト側を外側に向けて装着してください。
○タイヤサイド部に回転方向または取付方法等の指定があるタイヤは、その指定の通りに正しく装着してください。

⚠警告 ○破裂の危険がありますので、タイヤを車両に装着した時は車体と接触するおそれがないか、必ずご確認ください。
○車体からタイヤ・ホイールがはみ出さないようにしてください。オーバーフェンダーになるような装着、およびフェンダー加工、車両の改造等による装着は、法令で禁止されています。絶対に避けてください。
○複輪タイヤ使用の場合、外径差が大きいと早期損傷や偏摩耗により安全性、経済性が損なわれます。
複輪での外径差は、小型トラック用タイヤでは、ラジアルタイヤは6mm以内、バイアスタイヤは8mm以内であることをご確認ください。許容差内の外径差がある場合は、小さい方を内側に装着してください。
○ホイールを外した時には、ホイールボルト、ホイールナット、ディスクホイール等に折損、亀裂、変形、著しい錆び等の損傷がないことを確認してください。
○アルミホイールからスチールホイール、またはスチールホイールからアルミホイールに交換する場合、ホイールボルト、ナット(JIS方式の場合のみ交換)を専用のものに交換してください。
○ホイールナットはトルクレンチ等トルクを設定できる器具を使用し、規定トルクで締め付けるようにしてください。インパクトレンチで締め付ける場合は、締め付け時間、圧縮空気圧等に留意し、締め過ぎないよう十分注意を払い、トルクレンチでの確認等を併用してください。
●ホイールを車体へ取り付け、50～100km走行後、ホイールナットを規定トルクで増し締めしてください。

⚠警告 ○リトレッドタイヤは、前輪に装着しないでください。後輪でも、特に使用条件の過酷なシングルの遊輪(最後輪)での使用は避けてください。安全性・経済性を損なう場合があります。

### 空気圧に関する注意

⚠警告 ○エアコンプレッサーの調整弁は、タイヤ破裂の危険があるので、タイヤの使用空気圧に応じ、下表により正しく調整してください。

エアコンプレッサー調整弁の最高調整空気圧

| タイヤの使用空気圧区分 | 調整弁の最高調整空気圧 |
|---|---|
| 400kPa(4.0kgf/cm²)まで | 500kPa (5.0kgf/cm²) |
| 400kPa(4.0kgf/cm²)超～600kPa(6.0kgf/cm²)まで | 700kPa (7.0kgf/cm²) |
| 600kPa(6.0kgf/cm²)超～900kPa(9.0kgf/cm²)まで | 1,000kPa (10.0kgf/cm²) |
| 900kPa(9.0kgf/cm²)超～1,200kPa(12.0kgf/cm²)まで | 1,300kPa (13.0kgf/cm²) |

⚠警告 ●タイヤの空気圧は、走行前の冷えている時に、エアゲージにより定期的(最低1ヶ月に1度)に点検し、自動車製作者又はタイヤ製作者の指定空気圧を下回ることがないように調整してください。空気圧に過不足があると、タイヤが損傷したり、事故等につながるおそれがあります。
●特に偏平タイヤの空気圧不足は、見た目にわかりづらいため、必ずエアゲージによる点検をしてください。
●走行時および走行後は熱によって空気圧が高くなりますが、決して抜かないでください。
●自動車製作者の指定空気圧は車両の取扱説明書、ドア付近等に表示されています。不明の場合はタイヤ販売店等にご相談ください。
●タイヤの性能を十分に発揮するためには、適正空気圧で使用することが大切です。不適正な空気圧で使用しますと、操縦安定性の低下やタイヤ損傷の原因となります。
●スペアタイヤの空気圧は、定期的 (最低1ヶ月に1度) に点検し、自動車製作者の指定した値に調整してお使いください。
○複輪間で空気圧差が大きいと、タイヤ損傷、偏摩耗等により経済性、安全性が損なわれます。複輪タイヤの空気圧は、同一になるように充填してください。

### 摩耗限度

⚠警告 ●タイヤの溝深さの使用限度は、スリップサインが露出する残り溝1.6mmです。それ以前に新品タイヤとお取り替えください。

⚠警告 ●積雪および凍結路走行の場合は、冬用タイヤの残り溝が新品時の50%以上あることを確認してください。接地部にプラットホームが設けられているタイヤの場合は、これが露出しているか否かで判断してください。残りの溝深さが新品の50%未満のタイヤは、冬用タイヤとしては使用しないでください。夏用タイヤとして継続使用する場合のタイヤの溝深さの使用限度はスリップサインが露出する残り溝1.6mmです。すり減ったタイヤは運動性能が低下したり、濡れた路面でスリップしやすくなるなど危険です。それ以前に新品タイヤとお取り換えください。
●80km/h以上の高速で走行する場合のタイヤの使用限度は、小型トラック用タイヤで残り溝が2.4mm以上であることを確認してください。

### 安全走行ポイント

⚠警告 ●走行中に車両が操縦不安定または異常な音および振動を感じたときは、すみやかに安全な場所に停車して、車両およびタイヤを点検してください。タイヤに変形等異常がないか確認してください。また、外観上、異常がなくても、できる限り低速で移動し、タイヤ販売店等へ点検を依頼してください。

⚠警告 ●急発進、急加速、急旋回および急制動は危険ですので避けてください。特に、湿潤路、積雪路および凍結路はすべりやすく、事故につながるおそれがあるため、急ブレーブでは減速すると、道路状況に応じた適切な運転をしてください。

⚠警告 ●タイヤを傷つけるおそれがあるので、道路の縁石等にタイヤの側面を接触させたり、道路上の凹みや突起物の乗り越しなどは避けてください。
●走行中は、常に走行速度に応じた車間距離を確保してください。特に、湿潤路、積雪路および凍結路走行時は十分な車間距離を確保してください。
●タイヤのカテゴリーやサイズを変更した場合は、タイヤの運動特性が変化するので、なれるまでは走行速度等に注意して運転してください。
●タイヤの制動性能は、車両の走行速度、路面状況、残り溝深さおよびカテゴリー (夏用タイヤ、冬用タイヤ等) により異なります。冬用タイヤは積雪路および凍結路面性能を重視しています。特に乾燥路および湿潤路で使用する場合は、実際の交通 (速度) 規制に従い、走行速度に注意し、急発進、急制動、急旋回を避け、安全運転に心がけてください。
●安全走行を確保するため、タイヤ点検時に合わせて、ホイールバルブも劣化、亀裂がないことを点検してください。ホイールバルブに劣化、亀裂がある場合はタイヤ販売店等にご相談ください。また、バルブキャップをしっかり締め付けているかどうかも確認してください。
●推奨路面以外での使用は故障の可能性がある為、控えてください。
○応急用タイヤ、パンク応急修理用具で修理したタイヤおよびランフラットテクノロジー採用タイヤ(エクステンディッドモビリティタイヤ)のパンク時の使用に関しては、自動車製作者の指定に従ってください。
○ホイールボルト、ホイールナット、ディスクホイール等に折損(伸び、やせ含む)、亀裂、変形、著しい錆び等の異常がない事を確認してください。

### 美化・保護剤

○市販の瞬間パンク修理剤またはタイヤつやだし剤等で、タイヤに劣化等有害な影響を及ぼすものは使用しないでください。
○シリコンやワックス分が含まれているタイヤ美化剤やリム組み潤滑剤を塗布する場合は、トレッド表面 (接地部) に付着しないように注意してください。もし付着した場合は注意して走行してください(目安として乾燥路で10km前後)。

### タイヤ保管

○タイヤ、チューブは、直射日光、雨およびオ水、油類、ストーブ類の熱源および電気火花の出る装置に近い場所などを避けて保管してください。
○タイヤ単体での保管の場合、特に内面に水や異物が入らないように保管してください。
○長期間、取り外しし保管しますと、タイヤ内部の薬品がにじみ出て床を汚すおそれがありますので控えてください。もし床面に保管する場合は、段ボール等厚い敷物をご使用ください。
○タイヤ・ホイールセットでの保管の場合は、接地部の変形を抑えるため、なるべく横置きに保管してください。また、空気圧を使用時の1/2程度に落とし、ホイールバルブにはバルブキャップを取り付けて保管してください。

### 長期経過タイヤの点検・交換について

●タイヤは自動車の安全にとって重要な役割を担っています。一方、タイヤはさまざまな材料からできたゴム製品であり、ゴムの特性が経時変化するのに伴い、タイヤの特性も変化します。その特性の変化はそれぞれ環境条件・保管条件および使用方法 (荷重・速度・空気圧) などに左右されますので、点検が必要です。従って、お客様による日常点検に加え、使用開始後5年以上経過したタイヤについては、継続使用に適しているかどうか、すみやかにタイヤ販売店等での点検を受けられることをお奨めいたします。また、同時にスペアタイヤについても点検を受けられることをお奨めいたします。また、外観上使用可能のように見えたとしても (溝深さが法律に規定されている値まですり減っていない場合も) 製造後10年 (注) 経過したタイヤ (含むスペアタイヤ) は新しいタイヤに交換されることをお奨めいたします。なお、車両メーカーがその車の特性からタイヤの点検や交換の時期をオーナーズマニュアル等に記載している場合もありますので、その記載内容についてもご確認ください。(注:ここに記載した10年という年数は、あくまで目安であって、そのタイヤの実際の使用期限 (すなわち、継続使用に適していないこと、または安全上の問題があるかもしれないことを示す時期) を示すものではありません。従って、環境条件・保管条件および使用方法によって、この年数を経過したタイヤであっても継続使用に適している場合もあれば、この年数を経過していないタイヤであっても継続使用に適していない場合もあります。10年を経過していないタイヤであっても、上記の環境条件等によっては交換する必要がある場合があることにご注意ください。また、この10年という年数およびタイヤ販売店等による点検のお奨め時期である使用開始後5年という年数は、いずれもブリヂストン・ブリヂストンの販売会社・タイヤ販売店による品質保証期間・期限を示すものではありません)

### 位置交換

●タイヤの摩耗は、駆動輪と操舵輪等装着位置によって受ける力が異なるため、均一にはなりません。
異常振動・騒音の防止およびタイヤ寿命を延ばすため、位置交換 (ローテーション) を適宜実施してください。
●タイヤの位置交換は、車両の使用条件に合わせて、スペアタイヤも含め、適正な方法で定期的に行ってください (但し、Tタイプ応急用タイヤは除く) 。

### 過積載

⚠警告 ●タイヤが損傷し、事故につながるおそれがあるので、車両に指定された積載量を超えた積載、定員を超えた乗車はしないでください。

### ホイール・アライメント

●車両の足回りに異常が生じますと操縦安定性不良、異常摩耗が発生する場合がありますので、適宜ホイール・アライメントを確認、調整してください。

### タイヤチェーン使用時の注意

●タイヤチェーンは、タイヤサイズに適合するサイズのものを、駆動輪または自動車製作者が指定する位置のタイヤに装着してください。
●装着可能なタイヤチェーンについては、販売店・タイヤチェーン製造元等にご相談の上、車両と干渉しないことを必ず現車で確認してください。
●タイヤチェーンを装着して積雪または凍結していない道路を走行すると、タイヤ、タイヤチェーンおよび車両を損傷したり、スリップするおそれがあるので、避けてください。
●タイヤチェーンを装着しての積雪路および凍結路走行は、金属製チェーンでは30km/h以下、非金属製チェーンでは50km/h以下の速度をお守りください。

### ブレーキテスター使用上の注意

○タイヤがロックした時は、できるだけ早くブレーキをはなしてください。ブレーキテスター上で長時間タイヤをロックさせると、タイヤ損傷に至る場合があります。

### 焼印の押し方

○管理のため焼印を押す時は、焼印からのクラックを防止するため、位置はリムライン付近になるべく浅く押してください。

### その他の注意

⚠警告 ○リ・グルーブ、穴あけ等の加工をしたタイヤは、損傷し、事故につながるおそれがあるので、使用しないでください。
●低床化、積載効率向上をはかるために既存のトラック・バスに新たにロープロファイルタイヤを装着される場合は、「車両改造変更申請」で、陸運局の認可が必要です。なお、タイヤ外径が小さくなるため、エンジン回転数の増加や、スピードメーターの値に狂いが生じます。詳しくは、ブリヂストンの販売会社、またはカーディーラーにお問い合わせください。

### リトレッドタイヤ選定・使用上の留意点

●リトレッドタイヤ選定上の留意点
リトレッドタイヤは摩滅したタイヤを土台に用いて (以下台タイヤと表現します) 、トレッド面に新しいパタン (模様) を形成して製造します。
リトレッドタイヤでは用いた台タイヤを明らかにするために台タイヤに刻印されている表示を残し、リトレッド部分に表示を加えています。
このため、リトレッドタイヤ選定時には次の点にご留意願います。
●リトレッドタイヤのタイヤサイズ、タイヤ製造表示
タイヤサイズ並びにタイヤの基本構造は台タイヤのオリジナル表示を用います。
タイヤサイズ表示例　1)　11R22.5 14PR
タイヤサイズ表示例　2)　275/80R22.5 151/148J
タイヤ構造表示例　3)　TUBELESS
タイヤ構造表示例　4)　RADIAL
●リトレッドタイヤのパタン・SNOW等の表示
リトレッドタイヤでは台タイヤとリトレッド後のパタン名称が一致しない場合があります。リトレッド後のパタン名称および冬用タイヤを表すSNOW表示等は、リトレッド部分の表示を確認願います。
●リトレッドタイヤは次の留意点を守ってご使用願います。
●リトレッドタイアの使用条件
①空気圧　新品タイヤと同じ空気圧管理でご使用願います。
②装着位置　前輪には使用しないでください。後輪でも、特に使用条件の過酷なシングルの遊輪 (最後輪) での使用は避けてください。安全性・経済性を損なう場合があります。
③複輪組み合わせ　同じリトレッドパタンでも使用する台タイヤによって外径 (直径) が異なる場合があります。複輪外径差は8mm以内でご使用ください。
④バルブなど　リトレッドタイヤ装着時にも、新品タイヤ装着時と同様に、バルブ、チューブ、フラップは新品をご使用願います。
⑤走行速度　法定速度を守ってご使用願います。

上記「タイヤを上手に使っていただくために」は、すべて一般のお客様へご案内しているものですが、○印は販売店様にもご確認いただきたい項目となります。

①カタログに記載のメーカー希望小売価格は、販売店が販売する価格を拘束するものではありません。②メーカー希望小売価格は、2025年7月1日以降のものです。(メーカー希望小売価格が記載されていないサイズはすべてオープン価格です。)③メーカー希望小売価格(税込)は、タイヤ1本の本体価格と消費税との合計額です。脱着、組替え、バランス調整料金等は含まれておりません。④廃タイヤの処理には、費用がかかっております。⑤当カタログに記載されている構造・仕様・価格等は予告なく変更する場合があります。⑥タイヤには製造番号が刻印されています。製造番号の下4桁(例1225)の数字で製造年週を示しています。最初の数字12は週(12週目)を、最後の数字25は年(2025年)を示します。⑦カタログ記載内容は、2025年7月1日現在のものです。
※BLIZZAK VRX 3 の価格は2025年9月以降の内容となります。

**スパイクタイヤは、「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律」により使用制限を受けるのでご注意ください。**



# タイヤをお選びいただく前に

## タイヤサイズ表示の仕方について

下記は当カタログの代表的な表示例です。

215 / 60 R 16 95 Q
① ② ③ ④ ⑤ ⑥
31 × 10.50 R 15 6PR
⑦ ⑧ ③ ④ ⑨
145 R 12 6PR
① ③ ④ ⑨
165 / 95 R 13 98/96 L SV-8
① ② ③ ④ ⑩ ⑥
7.50 R 16 12PR
⑧ ③ ④ ⑨
6.50 - 16 12PR
⑧ ④ ⑨

タイヤの強度 従来の8プライレーティング相当

①タイヤ幅の呼称(mm)
②偏平率(シリーズ、%)
③ラジアル構造
④リム径の呼称(インチ)
⑤ロードインデックス(LI)
⑥速度記号
⑦タイヤの外径(インチ)
⑧タイヤ幅の呼称(インチ)
⑨タイヤの強度
(プライレーティング)
⑩ロードインデックス
(LI、単輪/複輪)

※断面幅とはタイヤの総幅から、タイヤ側面の模様・文字等を除いた幅です。当カタログのタイヤ幅とは、断面幅を表します。なお、リムガードは含みません (スタッドレスタイヤにおけるリムガードの断面高さは最大8mmです) 。

## 偏平率について

偏平率とは、断面幅(W)に対する高さ(H)の比率を表す数値で、これによってタイヤの断面形状を知ることができます。

$$偏平率(\%)=\frac{H}{W}\times 100$$

### ロープロファイルタイヤとは

"ロープロファイルタイヤ"(Low:低い、profile:断面形状)とは、偏平率(シリーズ)の低いタイヤのこと。一般的に偏平率が55シリーズ以下のタイヤを指します。

## 適用リム幅(インチ)別タイヤ幅について

タイヤ幅はリム幅によって変化します。標準リム幅より、リム幅が0.5インチ広がると、偏平率50シリーズ以上では約5mm、45シリーズ以下では約6mm広くなります。

## 速度記号について

速度記号は、規定の条件下でそのタイヤが走行できる速度(最高速度=能力)を示す記号です。

| 速度記号 | 最高速度(km/h) |
|---|---|
| L | 120 |
| N | 140 |
| Q | 160 |
| H | 210 |

※最高速度とは、そのタイヤを装着したとき、自動車が平坦な舗装路面において、出すことが できる最高の速度をいいます。

## エクストラロード(XL)/レインフォースド(RFD)規格について

XL/RFD規格のタイヤは、タイヤ内部の構造を強化することで、空気圧をスタンダード(STD)規格対比高めに充填することにより、同一タイヤサイズ(セクション・偏平率・径)のSTD規格タイヤより高い負荷能力を発揮できるタイヤです。エクストラロード規格とレインフォースド規格は同じ意味です。以下ではXLと表記して説明します。

**XL規格のタイヤを正しく使うには?**

XL規格のタイヤに設定された負荷能力を発揮するためには、正しい空気圧を充填する必要があります。

| | タイヤサイズ | LI | 規格 | 空気圧(kPa)別の負荷能力(kg) | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 180 | 190 | 200 | 210 | 220 | 230 | 240 | 250 | 260 | 270 | 280 | 290 (kPa) |
| ① | 275/40R20 | 102 | STD | 655 | 680 | 710 | 740 | 765 | 795 | 825 | 850 | - | - | - | - (kg) |
| | 275/40R20 | 106 | XL | 650 | 675 | 705 | 735 | 760 | 790 | 815 | 845 | 870 | 895 | 925 | 950 (kg) |
| ② | 255/40R19 | 96 | STD | 545 | 570 | 595 | 620 | 640 | 665 | 685 | 710 | - | - | - | - (kg) |
| | 255/40R19 | 100 | XL | 545 | 570 | 595 | 620 | 640 | 665 | 690 | 710 | 735 | 755 | 780 | 800 (kg) |

上表を用いて、空気圧210kPaで比較します。

ケース① STD規格のタイヤよりも高い空気圧の充填が必要な場合。
STD規格:740kg→XL規格:735kg
↓
空気圧210kPaだと負荷能力不足により高い空気圧充填が必要になります。

ケース② STD規格のタイヤと同等の空気圧の充填が必要な場合。
STD規格のタイヤと同じ空気圧で同じ負荷能力を発揮する場合もあります。

同サイズのXL規格とSTD規格のタイヤでは充填する空気圧が変わる場合もあります。
空気圧別負荷能力一覧表を確認し、正しい空気圧を充填してください。

詳しくはホームページをご覧ください。またはタイヤ販売店等にご相談ください。

## ロードインデックス(LI)について

ロードインデックス(LI)は、規定の条件下でそのタイヤに負荷できる最大負荷能力を示す数字です。

| LI | 負荷能力(kg) | LI | 負荷能力(kg) | LI | 負荷能力(kg) | LI | 負荷能力(kg) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 62 | 265 | 77 | 412 | 92 | 630 | 107 | 975 |
| 63 | 272 | 78 | 425 | 93 | 650 | 108 | 1000 |
| 64 | 280 | 79 | 437 | 94 | 670 | 109 | 1030 |
| 65 | 290 | 80 | 450 | 95 | 690 | 110 | 1060 |
| 66 | 300 | 81 | 462 | 96 | 710 | 111 | 1090 |
| 67 | 307 | 82 | 475 | 97 | 730 | 112 | 1120 |
| 68 | 315 | 83 | 487 | 98 | 750 | 113 | 1150 |
| 69 | 325 | 84 | 500 | 99 | 775 | 114 | 1180 |
| 70 | 335 | 85 | 515 | 100 | 800 | 115 | 1215 |
| 71 | 345 | 86 | 530 | 101 | 825 | 116 | 1250 |
| 72 | 355 | 87 | 545 | 102 | 850 | 117 | 1285 |
| 73 | 365 | 88 | 560 | 103 | 875 | 118 | 1320 |
| 74 | 375 | 89 | 580 | 104 | 900 | 119 | 1360 |
| 75 | 387 | 90 | 600 | 105 | 925 | 120 | 1400 |
| 76 | 400 | 91 | 615 | 106 | 950 | 121 | 1450 |

## ISO基準準拠のランフラットタイヤ/EMTについて

ランフラットタイヤとEMTでは試験条件が異なります。

| 項目 | ランフラットテクノロジー採用タイヤ | |
|---|---|---|
| | ISO規格(ISO16992) | |
| | ランフラットタイヤ | EMT※ |
| ランフラット性能 | 空気圧0kPa時、80km/hで80kmの距離を走行可能 | |
| 試験条件 | 荷重:最大荷重の65%<br>室温:38±3℃ | 荷重:最大荷重の60%<br>室温:25±3℃ |
| ISO規格シンボルマーク | | |

※EMT:Extended Mobility Tire

# ブリヂストンオリジナルアルミホイールを正しく安全にご使用いただくために!!(必ずお読みください。)

ブリヂストンオリジナルアルミホイールは「軽合金製ディスクホイールの技術基準(JWLまたはJWL-T)」に適合し「自動車用軽合金製ホイール試験協議会の強度試験(VIA)」にも合格していますが、安全維持および性能維持のために次の内容をご理解の上、ご不明な点はお買い上げの販売店等にご相談ください。尚、ご不明な点はお買い上げの販売店等でお問合わせください。
※商用車・4×4車種等用アルミホイールにつきましては、㈱TAN-EI-SYA　WHEEL　SUPPLYにお問い合わせください。

### ホイール選択時のご注意

●ホイールのサイズ・インセット・取り付け孔数・P.C.D.・取付面形状等が、装着する車両に適合することを必ず確認してください。これらが不適合だと車両に装着できません。
●当カタログ掲載ホイールにつきましては、ランフラットタイヤ装着時でも空気圧ゼロ状態の走行に対応しておりません。ランフラットタイヤ標準装着車両にご使用の際には、必ずスペアタイヤを装着してください。パンクした際は、装着タイヤがランフラットタイヤの場合でも走行せず、スペアタイヤに交換してください。
(※一部ランフラットタイヤ対応ホイールを除く、ランフラットタイヤ対応ホイールにつきましては、販売店等にお問い合わせください。)
●当カタログ掲載のP.C.D.=112のアルミホイールは、メルセデスベンツ(GLクラス、GLSクラス、R350 4MATIC('12年式以降)、R550 4MATIC、ML63 4MATIC、S550 PLUG-IN HYBRID、Vクラス[W447]、GLE63S 4MATIC、EQC400)、ベントレー、マイバッハ(57、62)及びBMW(X5 7人乗り、X5 PHV、X7)には装着できません。

### ホイール取り付け時のご注意

⚠警告 ●取り付けには別売りのブリヂストンのナット及びボルトを使用してください。尚、一部のホイールにつきましては、車両純正のナットあるいはボルトをご使用いただくもの、同梱の専用ナットあるいはボルトをご使用いただくものがありますので、その場合は、ホイール個々の仕様に適合したナットあるいはボルトをご使用ください。ホイールの取り付けナット座には60度テーパー座、球面座、及び平面座があります。この形状が異なると充分な締め付けができず、走行中に取り付けナットあるいは取り付けボルトが緩んで外れる等大変危険です。
⚠警告 ●取り付けナットあるいは取り付けボルトの締め付けは、対角方向に仮締めを行い、その後トルクレンチを使用して、車両メーカーの規定トルクにて均等に締め付けてください。締め過ぎはボルト孔やハブ孔の変形・ボルト孔破損など、また、締め不足は緩みや外れの原因となります。
●バルブは付属の専用バルブをご使用ください。別タイプのバルブを使用しますと、寸法・形状の不適合により バルブ孔からの空気漏れの原因となりますので絶対に避けてください。クランプイン・タイプ(ナット締め)のバルブでは、ナットの締め付けトルクは1.5～2.5N・m(15～25kgf・cm<0.15～0.25kgf・m>)にて締め付けを行ってください。また、タイヤ交換時には新品の専用バルブに交換してください。古いバルブはパッキン等のゴムが劣化し、空気漏れの原因となります。なお、バルブコア(ムシ)はバルブに付属しているものをご使用してください。バルブコア(ムシ)のみを交換する際は、付属しているものと同形状のもの(ショートタイプ)をご使用ください。
●インパクトレンチによる取り付けナットあるいはボルトの締め付けは避けてください。締め過ぎや、傷、変形、及び偏芯取り付けによる振動発生の原因となります。
⚠注意 ●タイヤを組んだ後は、水槽等でタイヤとリムの合わせ目およびバルブ周辺部等に空気漏れがない事を必ず確認してください。

### ホイール取り付け後のご注意

⚠警告 ●車体からタイヤ・ホイール(含むキャップ)がはみ出さないようにしてください。オーバーフェンダーになるような装着、及びフェンダー加工、車両の不正改造等による装着は法令で禁止されています。絶対に避けてください。
⚠警告 ●車に装着後、ハンドルを左右一杯にきって車体との接触がない事を確認してください。また、純正サイズよりタイヤ・ホイールサイズが大くなると、車両外側に出る事がありますので、純正サイズと異なるサイズ選択の際は車両静止状態で干渉・はみ出しが無い場合でも、走行時フェンダー等への接触の可能性がありますのであわてずご確認ください。
⚠注意 ●装着初期やタイヤ・ホイールの位置交換後は取り付けナットあるいはボルトが緩む場合がありますので、一定期間(50～100km)の段階で、車両メーカーの規定トルクにて増し締めを行ってください。また、定期的に取り付けナットあるいはボルトの緩みがないか点検してください。

### 走行中のご注意

⚠警告 ●走行中に異常な振動や音を感じたら直ちに安全な場所に停車し、ナットあるいはボルトの緩みやホイールの変形、タイヤの状態等を点検してください。
●道路の縁石や凹凸等への乗り上げは、リムフランジ部を傷つけやすいので注意してください。

### 日常のお手入れ

●アルミ合金は塩分や土壌等が付着すると腐食しやすいので、海辺や雪路・悪路等走行後は、水洗いをしてください。また洗浄の際、市販のホイールクリーナー等を使用する時は説明書を良く読んで使用可否を判断してください。
⚠注意 ●洗車機の使用はホイールに傷がつく場合がありますので、お手入れはなるべく手作業で行ってください。尚、ホイールの角で手を切らないように、注意して作業をしてください。
●保管をする時はきれいに洗浄し直射日光や湿気を避けてください。

### 危険です! 絶対に行わないでください!!

⚠危険 ●組み立て式(2・3ピース)ホイールのリムとディスクの分解や組み立てボルトを緩めたり、増し締めは絶対に行わないでください。分解や組み立てボルトを緩めたりしますと、ホイールの強度低下、変形などにつながり、重大な事故を招く恐れがあります。
⚠危険 ●変形や亀裂を生じたホイールの修理・加工は絶対にしないでください。目に見えない歪みや溶接による熱の影響で強度が低下し危険です。

**[ホイールサイズ表示の例]** ※表示位置や配列はホイールによって異なります。

16× 6½ J 5 114 45
① ② ③ ④ ⑤ ⑥

①リム径(インチ)　②リム幅(インチ)　③リムフランジ形状　④ボルト孔数　⑤ボルト孔ピッチ円直径(mm)　⑥インセット(mm)

JWL (JWL基準適合マーク JAPAN LIGHT ALLOY WHEELの略)
「乗用車用軽合金製ディスクホイールの技術基準」
国土交通省通達により、国内で販売される乗用車(3・5・7ナンバー車)用アルミホイールには、JWLマークの表示が義務づけられています。自社認定制度により、この基準に合格したものにJWLマークの表示が許されています。

JWL-T (JWL-T基準適合マーク JAPAN LIGHT ALLOY WHEEL TRUCK&BUSの略)
「トラックおよびバス用軽合金製ディスクホイールの技術基準」
JWL同様にトラック、バス(1・4ナンバー車)用アルミホイールには、JWL-Tマークの表示が義務づけられています。また、乗用車区分(3・5・7ナンバー車)であっても車両総重量により、LTタイヤが標準装備されている車種ではJWL-T表示のアルミホイールの装着が必要です。

VIA (品質検査合格マーク VEHICLE INSPECTION ASSOCIATIONの略)
JWL・JWL-T基準に定める適合商品であるか否かを第三者公的機関の「自動車用軽合金製ホイール試験協議会」が確認するもので、JWL・JWL-T基準による厳格な品質・強度再確認試験に合格したものについてはVIAマークの表示がされます。

●当カタログに記載されている構造・仕様・価格等は予告なく変更する場合があります。
●商品の色は、印刷および撮影条件等から、実際の色と異なって見える事があります。

ホームページはこちら▶